

アート・リソースの活用と 大学附属美術館の設置

開学 50 周年にむけた
リサーチ・ユニヴァーシティ機能の拡充

2013 年 11 月 16 日 (土) 13:00 → 17:00
筑波大学 5C 棟 5C216 教室

主催

筑波大学芸術系 / 筑波大学芸術学美術史学会 / 科学研究費補助金 (B)
「大学における『アート・リソース』の活用に関する基礎的研究」(課題番号 23320042)

後援

美術史学会



筑波大学は国立大学法人の総合大学として唯一、美術およびデザインの諸分野に係る専門的教育・研究にかかわる組織を備えている一方、高等教育機関として教育・研究に裨益することが期待される附属博物館の機構・施設をもたない。

そうした環境にあって、筑波大学の芸術系組織は、大学本部に寄贈された美術品コレクションの保存・管理の実務を担いつつ、かかる美術作品や関連二次資料を重要な学術的芸術資源「アート・リソース」としての価値を付与したうえで積極的に活用し、主として美術史の教育研究プログラムの実践によって学内外にその成果を問うてきている。

このたび開学 40+101 周年記念事業の一環として企画された本シンポジウムでは、大学と美術館双方でのキャリアを有しそれぞれの組織環境の長短に通暁した国内外の研究者によって、「アート・リソース」を活用した学際的あるいは脱領域的な研究プログラムの構築に加えて、従来の大学附属博物館の機能を包含しつつ新たな枠組みにより構想される研究拠点の設置を射程におさめたリサーチ・ユニヴァーシティ機能の拡充に関する可能性について議論する。



基調報告

ピーター・ニズベット Peter Nisbet

ノース・カロライナ大学アークランド美術館主任学芸員 [近代美術史]

橋爪節也

大阪大学総合学術博物館館長 / 大阪大学大学院文学研究科教授 [日本美術史]

栗田秀法

名古屋大学大学院文学研究科教授 [博物館学研究室 / 西洋美術史]

寺門臨太郎

筑波大学芸術系准教授 [西洋美術史]

司会 / 進行

五十殿利治

筑波大学芸術系教授 [近代美術史]

お問い合わせ

筑波大学芸術系美術史研究室 (寺門)

terakado@geijutsu.tsukuba.ac.jp

www.art.tsukuba.ac.jp



関連企画

筑波大学所蔵 石井コレクション 特集展示

紙上の至高なるもの

11月12日(火)→12月1日(日)

筑波大学 大学会館 アートスペース

09:00-17:00 月曜日休館

入場無料